

HADANO MEISUI ROTARY CLUB WEEKLY

例会場 秦野市平沢 2550-1 秦野商工会議所内 TEL(0463)81-1355

事務所 秦野市平沢 2550-1 秦野商工会議所内 TEL(0463)81-1355

例会日 毎週木曜日 12時30分～13時30分

会 長 今井茂文 幹 事 大津俊彦 会報委員長 柳川清紀



ロータリーの未来はあなたの手に

2009年～2010年度国際ロータリー会長

ジョン・ケニー

第1185回例会 2010年6月17日(木)(晴)

司 会 古谷スミ子副幹事

点 鐘 今井茂文会長

合 唱 「それこそロータリー」

ビジター紹介 古谷善幸様(秦野市長) 正岡義海様(秦野市役所秘書課)

祝誕生記念日 眞壁君(6/30)

① 秦野丹沢ライオンズクラブより 30周年記念式典のお礼状

[例会変更] 寒川 平塚

○ 本日、炉辺会議を開催いたします。

時間 18:00～

場所 やなぎ家本店

会長報告

○ 本日は秦野市長が卓話をしてくださいます。今後も1年に1度位は我が名水クラブにおいて頂き、お話して頂ければと思います。

○ ガバナー事務所より

今年度の地区補助金申請の結果について

審査の結果、貴クラブのプロジェクトは水無川の土手を整備維持するというもので、芝桜の苗の費用として\$1,500の補助を決定いたしました。

※ 芝桜植樹、手入れについて、地区補助金(DDF)を受けることが出来ました。「環境問題」の一つと、して頂けたと思います。

幹事報告

[週報受理] 伊勢原

[受付文書]

会員数	41名
出席数	36名
出席率	87.80%
前々回の修正	92.68%

メイ ク ア ッ プ	[事後] 西村君 古谷さん 相原君 眞壁君(秦野)
------------------------	------------------------------

スマイル報告

○ 今井茂文君 「古谷市長様、ご多忙中、時間をとってくださいます。ありがとうございます。秦野市の現況など、お話して頂けたらと思います。我がクラブでも協力出来ることがあれば、是非、協力いたしたく存じます」

○ 大津俊彦君 「古谷市長、今日はお忙しい中、ありがとうございます。今日は宜しくお願ひします」

○ 高橋幸雄君 「古谷市長、今日はよくいらっしゃいました。本日の講話は大変楽しみでした。宜しくお願ひ致します」

○ 神崎達朗君 「古谷市長、お忙しい中、ありがとうございます。宜しくお願ひします」

○ 古谷スミ子さん 「梅雨の季節です。健康に留意しましょう」

○ 眞壁 仁君 「誕生日お祝いを頂き、ありがとうございます」

本日のプログラム	6月24日 ○ 夜間例会(納会) 点鐘18:00
----------	--------------------------------

次週のプログラム	7月1日 ○ 年頭挨拶 会長・幹事 ○ 理事会
----------	----------------------------------

ます。スマイルします」

- 関野慶治君 「古谷市長、本日はお忙しい中、お越しいただき、ありがとうございます。どうぞ宜しくお願い致します」
- 河野治男君 「古谷秦野市長、ようこそ！ご講話、宜しくお願い致します」
- 諸星常平君 「古谷市長、ようこそ。私くらい上手に話をして頂ければ幸いです」
- 山口光弘君 「古谷秦野市長、本日の卓話を楽しみにしております」
- 田中宏一郎君 「スマイルします。市長、懐かしの名水RC例会で、ご講話宜しくお願いします。また、今年度最後の第3班炉辺会議ですね。楽しみに参加します。本日も宜しくお願いします」
- 飯田隆明君 「ようこそ古谷市長！！秦野名水RCへ」
- 原 郁夫君 「名水最終例会は国際大会参加のため出席できません。よろしく！」
- 小清水正義君 「今井会長、大津幹事、1年間お疲れさまでした。今後共ロータリーの為に頑張ってください」
- 桐山晃忠君 「梅雨の晴れ間はジトとしていて暑いですね。季節の変わり目は体調を崩しやすいので、気をつけましょう」
- 加藤一也君 「瀬戸さん、晴れて建設会社の社長になられて、おめでとうございます。スマイルします」
- 諸星道治君 「スマイルします。今年度最後の出席報告となりました。読み上げるだけで楽でした」
- 前 肇君 「スマイルします」
- 瀬戸 誠君 「次回例会が今井年度の最後のスマイルになります。皆様宜しくお願いします」
- 安部信三君 「所用のため早退します」

合計 42,000 円

委員会報告

- 国際奉仕委員会 原 郁夫委員長
タイへの消防車をいよいよ明日、山下埠頭に運びます。飯田さん、ご協力ありがとうございます。
- 古谷スミ子さんより
「芝桜見守り隊通信一④」を配布致しました。今後の予定が掲載されています。ご協力宜しくお願い致します。

卓話

「2期目の市政運営について」

古谷善幸秦野市長



皆さん、こんにちは。本日は、名水ロータリークラブの例会にお招きいただきまして、ありがとうございます。

また、日頃、名水ロータリークラブの皆さんには、市政において、また、地域のまちおこしのためにご理解、ご協力をいただいておりますことに対し、市民を代表いたしまして、厚く御礼を申し上げます。

さて、1月の市長選挙を経て、引き続き、17万都市の市長職をお任せ頂きました。2期目となりましたが、初心を忘れずに、市民や企業や様々な団体の皆さんの力をお借りして、全力で市政運営に取り組んでまいります。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

本日は、新年度がスタートし2月が経ってはおりますが、2期目の市政運営に当たっての私の考えをお話させていただきます。

◆ 基本姿勢 (以下箇条書き)

- ・4年前の市長就任後、直ちに財源の裏づけのある総合計画第三期基本計画を策定し、これまでの4年間、計画を着実に実行し、市政の推進に努めてきた。
- ・議会や市民、企業、団体等の御理解とご協力、職員の努力により、一定の成果を挙げることができたと思っている。
- ・これからの4年間も、これまでの基本的なスタンスは堅持し、更に強力に推進する。まだ道半ばの事業もあり、この4年間でしっかりと仕上げていきたい。
- ・今日の地方自治体を取り巻く環境は、地方分権改革の推進、少子高齢化の急速な進行、人口減少社会の到来及び住民ニーズの多様化など、さまざまな課題が山積している。さらに未曾有の経済危機により、極めて厳しい行財政運営を強いられる中で、市役所も「経営」という姿勢をもち、「あれもこれもではなく、あれかこれかの選択」をしていかなければならない。

◆市民に訴える重点施策

・選挙期間中、有権者に訴えてきた事項は多々あるが、敢えて挙げれば、

- (1) 一期目の重要課題の解決（クリーンセンター、大根川ポンプ場、新東名高速道路など）
- (2) 新総合計画などの策定
- (3) カルチャーパーク再編整備構想の具現化
- (4) 5月開催の全国植樹祭を契機とした、一世紀の森林づくり構想の更なる具体化
- (5) 周辺自治体や観光協会等の各種団体との連携を図り、地域資源（丹沢、水無川風の道、桜の里など）をフル活用した観光振興策の推進

◆総合計画等の策定

・市民意識調査では、本市の都市象である「みどり豊かなまち暮らしよい都市」を、市民の8割の方が望んでいる結果となった。

- ・先人たちが築いてきた礎（いしずえ）を受け継ぎ、ふるさと秦野が活力に満ち、さらに、将来にわたって輝き続ける存在感のある都市（まち）にしていきたい。そのため、平成23年度からスタートする「新総合計画」や「次期行革プラン」、そして「公共施設再配置計画」の策定を進めている。本市の現状や将来の秦野について、市民の皆さんと一緒に考え、『21世紀の秦野の未来を創る明日への架け橋』となる計画づくりを進めていく。

※ Voice Of はだの市民会議（公募市民90名）（協汗職員）

※地域まちづくり計画策定会議（8地区別地域が考えるまちづくり計画案）

※市民2000人アンケート、タウンミーティング、シンポジウム開催

◆行財政運営（将来を見通した「スリムだけれど温かい行政」への取り組み）

今後、さらに少子高齢化が進む影響から、税収の減少も想定される。そこで将来の本市の予算規模を見通したうえで、簡素で効率的な行財政運営を基本に、市民、地域そして企業と力を合わせて、「スリムだけれど温かい行政」に向け、職員全体が一丸となって取り組まなければならないと思っている。

・これまでも本市は、行財政改革を進め、職員数の削減や事業の見直しなどを行い、また市債借入れの抑制など、健全な財政運営に努めてきた。

・市の財政は引き続き厳しく、歳入では法人・個人市民税

が大きく減収となる一方で、歳出では扶助費などの社会保障関係経費を中心とした財政需要は著しく増加している。

これからも **最大多数の最大幸福**を願い、市民一人ひとりへの行政サービスのバランスを考えながら、健全な財政運営に努める。

◆最優先課題としては

一番目の項目と似ているが、言うまでも無く、さまざまな分野で、課題が山積している。

（変化・変革への対応）

今、国政においては、政権交代によりこれまで築き上げてきた国の政治、行政の仕組みやプロセスが変革してきている。

当然、地方自治体でも、こうした「変化・変革」に対応するとともに、これまでの国の主導で行われてきた画一的な行政サービスによる地域づくりから、「自己決定」、「自己責任」に基づいた、地域の実情にあった独自のまちづくりへと、転換していく必要がある。

（自分の暮らすまちに関心を。まちづくりの選択権は市民に）

私は、やはり何といっても、まずは多くの市民の皆さんに、自分の暮らすまちに関心をもちいただくことが一番大切であると思っている。なぜならば、自分のまちをどのようにしたいのか、良くするのも悪くするのも、その選択権は、生活者である市民の皆さんにあるのだから。

行政だけで一所懸命まちづくりを考えていても暮らしよいまちは実現されない。是非、行政と一緒に考え、汗も流していただきたいと思う。

（予算には限りはあるが、市民のアイデアは無限）

市民と協働を進めることで、さまざまなアイデアが集まる。予算に限りはあっても、市民のアイデアは無限。今こそ、市民の皆さんと行政が協働し、このように厳しい時代を切り開いていきたい。

（市民力、地域力とともに自主行政力を高める）

私は、常々「市民力、地域力」といっているが、同時に「自主行政力」も高めなければなりません。そのためには、先進性や創造性を備え経営感覚をもった職員を育成し、しっかりと自主・自立した行政運営ができる「行政力」を高めることが重要だと考える。

先に、述べた総合計画策定のための職員ボランティア

(協汗職員)、丹沢の登山への遭難対策支援隊、水無川周辺の清掃ボランティア、道路情報提供ボランティア「道奉行」など、業務を離れても、我が街「秦野」のために積極的に汗をかこうとする職員が増えている。

「市民力、地域力」と「自主行政力」、この両輪の歯車がしっかりしているからこそ、すばらしい秦野のまちづくりが出来ると確信している。

(過去の右肩上がり、都市間・地域間競争の時代の終焉)

私は、28歳のときに多くの仲間に支えられ、市議会議員に送り出してもらい、その後、県議会議員を経て秦野市長となった。

議員時代を振り返ると、日本の右肩上がりのとても良い時代に政治、行政に関わり、わがまち秦野が「都市間競争・地域間競争」に遅れてはならないと、市民・県民福祉の充実に傾注してきた。このことは、本市に限ったことでなく、全国の3千数百あった市町村のどこでも都市基盤や箱物などの整備を中心に競ってきた。

すなわち、近隣のまちに立派な文化会館ホールができた、わがまちも負けずにと言わんばかりに、より立派なホールを造るという、「フルセット」の志向が許された**幸福な時代**であったと思う。国の財政が豊かであったため国の財政出動が拍車をかけた。全国で省庁縦割りの施設が乱立した結果、現在では後年度の財政負担の増大と利用率の低さが地方自治体を苦しめている。また、近年では、都市部と地方部の自治体格差は拡大し、その結果としての市町村合併が進み、現在、全国市町村は 約1,750となった。

(現在は社会システムの大きな転換期、成熟社会のまちづくり)

現在、地方自治体を取り巻く環境は、地方分権改革の推進、少子高齢化の急速な進行、人口減少社会の到来及び住民ニーズの複雑多様化などさまざまな課題が山積し、さらに社会経済環境は厳しい状況下にある。これまでの社会システムの大きな転換期にある。

このことを再認識し、これからの都市づくりは、これまでの「成長社会」に見られた量的拡大・成長への対応から、「成熟社会」においては、地方財政の制約が厳しさを増していく中で、市民が将来にわたって安心して暮らせること、幸せを実感できる生活環境重視の方向へ対応していく必要がある。

すなわち、私は、従来のフルセット志向に終えんをし、

「都市間競争・地域間競争」から「都市間連携・地域間連携」へと移行していくことが大切と考えます。

(広域連携、相互利用への思考の転換)

「隣のまちに立派なものができれば、うちのまちにも欲しい」とする時代から、「隣のまちに立派なものがあるならそれを利用する。」「自分のまちに立派なものがあれば、それを利用させてあげる。」という、広域連携し相互利用していくという思考の転換が必要です。

それぞれの自治体間の垣根を低くして連携し、市民に連携のメリットを目に見えるようにしていくことが重要と考えます。

◆最後に

私は、自分が生まれ育ったふるさと秦野を「いい意味での田舎、秦野らしさのある都市(まち)」にしたいという夢をずっと持ち続けている。

現代社会は、効率性や個人主義ばかりがもてはやされ、人間関係が希薄化し、世の中全体がパサパサに乾いていると感じている。

だから、田舎という言葉には、人と人とのふれあい、温もりが感じられるまちにしたいという思いも込めている。

是非、魅力ある「ふるさと秦野」の創造に、皆様方に参画していただきたいと思っている。

引き続き、市政へのご理解とご協力をお願い申し上げ、私のお話とします。 ご清聴有難うございました。

